

テクノの未来を考えるニュースレター

Vol.

6

テクノの
未来を
考える

2026年9月

みんなで出し合った 意見をご紹介します!

現在、播磨科学公園都市の新たなあり方について、「まちづくりチーム」「都市フレームチーム」「イノベーションチーム」の3つのチームに分かれて検討を進めています。

令和8年8月27日には、「まちづくりチーム」の第4回会議を開催しました。主なご意見は裏面に掲載していますので、ぜひご覧ください。

今後も3つのチーム会議の開催状況や意見交換の内容については、「チーム会議ニュース」として引き続きお知らせしていきます。

チーム会議 開催概要【まちづくりチーム(第4回)】

■日 時: 令和8年8月27日(火曜日)

18時00分～19時30分

■場 所: 光都プラザ cotohana

■出席者数: 23名

・まちづくりチームメンバー 19名
(有識者2名、行政職員8名、地域住民9名)

・傍聴者 4名

■プログラム内容: 1.開会

2.ワークショップ(意見交換)

3.意見の共有

4.閉会

- ・前回(第3回)に引き続き、3班に分かれて意見交換を行い、付箋を用いて意見を出し合いながら論点に基づく具体的な検討項目を整理し、各班の検討結果を全体で共有しました。

【まちづくりチームの主な論点】(令和7年度第3回あり方協議会資料より)

- ①日常生活(医療・福祉・買い物等)の基盤の確保
- ②くらしの安全(防災・防犯等)の確保
- ③公共交通機関等の交通利便性、持続可能なモビリティの確保
- ④住環境の質の確保(豊かな自然環境との調和、多様な世代への配慮等)
- ⑤働く場・環境の確保
- ⑥多様な人がつながるコミュニティの形成
- ⑦質の高い教育環境の確保
- ⑧学生・研究者にとって魅力あるまちづくり
- ⑨研究機関×大学×企業×地域による新たな学び・交流の創出
- ⑩住民・学生・研究者等多様な人が交流する機会・場(空間)の創出
- ⑪都市ブランドや魅力の創出・発信、シビックプライドの醸成
- ⑫既存施設、未利用地、遊休施設等の有効活用
- ⑬若者等の定住・雇用環境の整備
- ⑭自然、都市の魅力を活かしたまちの魅力づくり、イベントの展開



アニメ「LONA」をきっかけに、 播磨科学公園都市の魅力を発信!?

令和9年4月から放送予定のアニメ「LONA」を活用した、播磨科学公園都市のPRに向けた取組を進めています。

現在、県民局やSPRING-8、市町・組合等とも連携しながら、10月24日の「フロンティア祭」での展示や、オプトピアでのPRコーナーの設置を検討しています。

展示内容については、行政だけでなく、地域のみなさんからもアイデアを募りながら、一緒につくり上げていく予定です。9月15日にはSPRING-8の見学とアイデア出しを行いました。引き続き、フロンティア祭に向けて検討・準備を進めていきます。



『LONA』ティザービジュアル2種
©WIT STUDIO/LONA COMMITTEE



意見共有の様子

主な意見



その他、全ての意見
はこちら！



参加者

- 地域の医療ニーズが満たされていない現状に対する解決策として、オンライン診療の仕組みを活用できると良いのではないかな
- 暮らしの面ではシェアライドのような仕組みを導入できないかな
- 手助けをする能力や少しの余力がある人と、ちょっとした手助けを必要としている人をつなぐ「お助け」ができるような仕組みがあればよいのではないかな
- この地域はもともと様々な人を受け入れてきた地域でもあるため、その特徴を引き継ぎ、多様な人々が幸せに暮らせる地域になればよい
- 地域防災力を高めることと、地域のつながりを強めることは表裏一体であり、日頃から地域のつながりを育むことが、災害時の助け合いや防犯にもつながり、双方を高めていくことが重要
- 行政任せではなく、住民一人ひとりが防災を「自分ごと」として捉え、地域で助け合うことで、自助・共助による地域防災力を高めていくことが重要
- ふれあい喫茶、100歳体操、三世代交流、盆踊り等の地域行事が減っており、お金をかけなくても、行事を通じて日頃から地域のつながりを育むことが、防災・防犯力の向上や安心して暮らせるまちづくりにつながる
- 「活動のためのお金を稼ぐ」という視点が重要であり、例えばアニメ作品とコラボレーションし、ふるさと納税の返礼品やクラウドファンディングの題材に活用できないかな
- 主体については、アニメが好きな人など、「面白い」と思う人が自発的に立ち上がっていけるとよい
- 現在行われている様々な活動を結び付けることで、テクノらしい文化をつくることができるのではないかな
- アニメの活用と「文化の創造」は結び付けることができそう
- アニメ制作会社等に協力を求めるだけでなく、地域側にも実際に活動する人の集まりをつくってはどうか



有識者（コーディネーター）

- 住民でできそうなことと、行政にお願いしなければならないことが少しずつ見えてきており、企業や外国人住民など、今後まちづくりに巻き込んでいかなければならない様々なステークホルダーが見えてきたことも大きな収穫である
- 防災に関する計画をつくること、シェアライドの仕組みを考えること、アニメ等のコンテンツを活用すること、建築ツアーを行うことなど、比較的短期的に取り組めそうなアイデアも見えてきた
- 「どのようにすれば実現できるのか」「あれができそう」というところまで踏み込めたことが非常によかった
- 今後は「このテーマとこのテーマは実は関係している」といった施策同士の関連性も出てくると予想され、そのような議論も進めることで、個別の取組だけでなく、それぞれをどのようにネットワークとして組み合わせていくのかという全体像まで考えられるのではないかな
- 既存の枠組みがある中で、どう乗り越えて実現するのかというところまで、今後は議論を深めていけるとよい

今後もワークショップ等の意見交換の機会を予定しています。

テクノの未来を、一緒に考えていきましょう！



播磨科学公園都市の新たなあり方
検討協議会マネジメント会議

【事務局】兵庫県企業庁 地域整備振興課

【電話番号】078-362-3850

【E-mail】chiikiseibi@pref.hyogo.lg.jp

テクノのあり方検討
についての詳細情
報はこちらをご覧
ください
(兵庫県企業庁HP)

